

開成の杜

第82号 ●2010年6月8日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口富左



講義の合間に…。

(撮影 山口郁生)

最近の大きな空は、青紺の響きが我が心を包摂せんとするように、視野の届く限り包み込むようである。美しい。

春の空が美しいことは何となく感じていたが、心静かに遠望すれば限りなく広く、大きく、わが存在もない広大な中に輝いている。

自然!! しぜん!! 年を重ねるに及んで、自然そのものが整然として、しかも美しいさまに、小さな道端の花にさえ心奪われる。

自然は何と深淵で繊細なのかと、心洗われることが多い。

私の部屋の窓から、大神宮の杜、遠く市内の建物、その先にかつて若い頃登った山々が存在していることを見ると、変らぬ自然の風景と、変らぬ日々のさまは、これを自然と言うのかと感慨にふける。

山への思いは、過去の記憶を呼び戻すが、最近ばかり歩き歩きの楽しみを行うには、年を重ね過ぎたこの状況を思い見る。



学園長 関口 富左

今、それはいつ……
過去を思つて!!

西にそびえる磐梯山、吾妻山。楽しい思いで訪ねた山々…。年を重ねた中であれこれと経験を重ねては、その都度の思いなどが老年の今、改めて思い出される。もはや動きのとれぬ自分を他人事のように思つては、過去を懐かしむと同時に、現在との相違をあらわれにも思いみるのである。

スキーの滑走の様子を見ては、かつてのことを思い出し、何とかできないものかと一応考えるが、到底駄目!! いや、少しやれないかなどと身の程知らずに思いもするが…。

老年には老年の楽しみ、余裕があるうかと考えても、当然如何ともし難い。ああ、若い時、元気な時の山、かの山への対面をし、山野の静かさ、美しさを味わったのだから…と。

年齢とは甚だ不便なことよと、当たり前のことを思つて自己を慰めたり、かつてのことを思い見たり。老いの現在、思い出と静かな中に今を見つめる。

今年学園は創立六十四周年。様々な経過を思い見て、今を迎えていることに感謝する日々である。

学園創立六十四周年を祝う 尊敬・責任・自由の式典歌が高らかに響く

学校法人郡山開成学園は昭和十二年、郡山発展の礎となった安積開拓の地、開成で産声を上げた。女子の高等教育の普及をめざして、わずかに二十名の郡山女子専門学院としての出発である。その後、昭和二十五年郡山女子短期大学を開設、昭和三十年附属幼稚園を開設、昭和三十三年附属高等学校を併設、昭和四十一年郡山女子大学を開学。

さらに、平成四年大学院修士課程、平成八年に博士(後期)課程、そして平成十二年に短期大学部に専攻科を開設し、女子の総合教育機関としての拡充を成し遂げた。

その間、社会の重要な一員として活躍している卒業生は五万八千人を超える。



講話する関口学園長

記念式典 粛々と

式典は四月二十二日、高校の部が午前中に、午後から大学、短大の部が行われ、合わせて二千百名が学園の誕生を祝った。

午後の部では創設者の関口富左学園長が講話。「本学園の建学意図



教職員が揃い、「吾子よ」を合唱して学生・生徒を讃える

を良くわきまえ、一層の発展に向けて、学ぶ者、教える者として精一杯の努力をしよう」と述べ、決意を新たにされた。

続いて、熱海町の鞍手山、石筵、安子ヶ島、長沼町の高土山に植樹した檜・杉の成長ぶりについて学生生徒代表が調査した状況を秋山恵理大学学友会長と寺木一湖短大友会会長が報告した。この後、学園オーケストラの演奏にのせて全教職員が若者賛歌「吾子よ」を合唱し、これに込めて学生が「青春の確かさを 今」を歌い上げ式典を盛り上げた。



表彰者(高校)



表彰者(大学・事務局)

創立六十四周年記念 平成二十二年第一回教養講座 ヒトはどのように賢くなってきたのか？

講師 京大名誉教授 山中一郎 先生

学園創立六十四周年記念教養講座は山中一郎京大名誉教授をお迎えし、四月二十二日に行われた。「ヒトはどのように賢くなってきたのか？」『取り巻く環境』へのヒトの適

応を研究する考古学から」という演題で記念講演会を行った。考古学は「ヒトが作って使ったモノを証拠に、そのヒトの行為を復元・推察する科学である」と説明し、ウマの家畜化の過程を明らかにした。食料資源のウマは中央アジアで家畜化された。品種改良が行われスマートな現在のウマに変わった。



山中一郎先生

地球環境の問題が取り上げられる昨今、長い時間の積み重ねの中でヒトと環境の関係を実証的に知ることの重要性を教えてください。

【財】短期大学基準協会による 第三者評価で適格認定証

財団法人短期大学基準協会(関口修理理事長)による第三者評価適格認定証の贈呈式が五月十三日、郡山ビューホテルアネックスで開かれ、本学短期大学部が適格の認定証を受けた。短期大学の第三者認定証は、同協



認定証を受け取る関口理事長



ACCREDITED
2009

(財)短期大学基準協会による
適格認定マーク

会が十項目のカリキュラム、学校環境など、計百四十四項目を自己点検し、基準協会などの第三者機関に申請し、適格と認められた。

また、三月に本大学は、日本高等教育評価機構



(財)日本高等教育評価機構認定証

オープンキャンパス日程決まる

学生募集につながる平成二十二年オープンキャンパスの日程が決まった。本年度も六月十三日、七月十八

日、九月五日の三回。いずれも日曜日。授業体験、在学生との懇談、個別面談、施設見学会などを実施する。郡山駅からは無料のシャトルバスが運行される。事前申し込みが必要だが当日も受け付ける。詳しくは入学事務局が大学のホームページで確認。

新入生を迎えて宿泊研修 裏磐梯で学外オリエンテーション

新入生を迎えての恒例のオリエンテーションが四月二十三日から一泊二日で裏磐梯ロイヤルホテルで実施された。

教師と学生が共同の宿泊研修を通して相互理解と親睦を深め、今後の学園生活をより充実したものにするのが目的。大学九十六名、短大三百三十三名が三班に分かれて参加した。

研修は開講式の後ビデオによる学校紹介で各学科の教育内容を全員で確認した後、各学科に分かれ、より具体的な講義内容や単位修得等の説明を受けた。新緑の大自然を満喫しこれから始まる学業にモチベーションを高めていた。



大自然を満喫した参加者たち

就職状況報告 — 就職部

平成二十二年三月に卒業した学生の就職環境は、日本経済不況により大変厳しいものでした。本学に送り付されてきた求人数も、前年度より二割減りました。しかしながら学生の努力と本学における就職支援体制により、平成二十二年三月卒業者の就職率は、大学九〇%、短期大学部九二%となりました。なかでも、

就職ガイダンスや就職対策講座、就職部ホームページの活用、学生と就職部アドバイザーの連携等は、学生の就職力アップに大きな役割を果たしました。

さて、平成二十三年三月卒業予定者に対する就職環境も厳しさが増しております。学生の皆さんは学生生活のなかで大いに自己を研鑽し、厳しい就職戦線を勝ち抜いてほしいと思います。

杜のなかで

介護保険を考える

— 生活援助の利用制限をめぐって —
現代医学によれば、老化は誕生や成長や死と同じく、人生の過程の当初からそのなかに内在するものであるといわれる。老化はやがて介護を必要とする。'00年4月、わが国は介護保険制度を創設した。その後、'05年、一種の構造的転換ともいえる制度改正が行われた。その中の一つである、生活援助(従来の家事援助)の利用制限について考えることにしたい。

介護保険創設のねらい

'00年4月にスタートした介護保険制度のねらいは、「社会による介護」つまり「介護の社会化」にあった。この背景には、わが国の急速な高齢化、要介護高齢者の増大、介護問題の深刻化などの事情があった。例えば、要介護高齢者は'00年256万人、'09年472万人、'14年には600、640万人になると推計されている。介護については、介護の長期化・重度化・多重化・老老介護化が進み、深刻な問題となってきた。こうした状況に対応するために、社会全体で、要介護高齢者に介護サービスを提供する介護保険制度が創設されたのである。

'05年介護保険改正

'05年改正の最大のねらいは、介護保険を持続するために、膨らみつつける介護費用を抑制することにあつたといわれる。ちなみに、介護費用の推移は、'00年度3.6兆円、'06年度6.4兆円、'09年度7.7兆円と増大の一途に

ある。改正の内容は、①介護予防サービスの導入②各種サービスのカット③在宅介護の推進④地域ケア体制の整備、などである。介護予防サービスは、軽度者(要支援)を対象として、リハビリ、筋力トレーニング、入れ歯の手入れ、栄養改善指導などを行い、介護の重度化を予防することによって介護費用の抑制を図る。サービスカットとしては、(1)要支援に対するホームヘルプサービスは月額制とする。月額制は利用限度額の2割削減により、実質的にサービスの利用制限となる。(2)ホームヘルプサービスは、これまでの1回2、3時間から90分を限度とする。(3)要支援の生活援助はホームヘルパーと一緒にを行う。(4)同居家族がいると生活援助は受けられない。

生活援助は うららかな生活の支柱

このように、これまで多くの高齢者にとって生きる支えであつた生活援助が利用を制限されたのである。この背景には、軽度者が生活援助を多く利用し、その結果、重度化と介護財源の乱用をもたらしたとの指摘があつたといわれる。しかし、生活援助の削減こそが、自立支援を阻むとの異論もあり、同居者のいる高齢者をめぐっては「日中独居」や「老老介護」の憂慮すべき事態を生じさせているという。

米国の人類学者、A・モンターギューは、高齢者の脳の衰えを最小にする可能性は、家庭に住み、配偶者と一緒に生活するなかにあると書いている。ここに、在宅介護の理念がある。うらかな家庭生活の主柱である生活援助を拡充することが介護保険の根本でなければならぬと考える。

(彌)

特集 研修紀行

大学・短期大学部

大学と短大は、今年も、海外と国内で各学科の特徴を生かした研修旅行を実施した。見聞を広めた本研修は参加者の今後の学習に大いに役立ちことであらう。

【すばらしい思い出一杯の ローマ・パリ生活実習】

人間生活学科四年 後藤 紀子

欧米の生活や文化を理解し国際的センスを養うこと、総合的に学んできた生活全般についてより一層理解を深めることを目的に、私たちは、ローマ・パリ六泊八日の海外生活実習を体験してきました。

ローマでは、世界最小のヴァチカン市国、サンピエトロ寺院、コロッセオ等を見学し、日本語を学んでいる現地学生と様々なことを語り合い親睦を深めました。ローマの学生と話題を共有しながら市内をくまなく見学できたことは貴重なすばらしく楽しい体験となりました。パリでは、ノートルダム寺院、ルーブル美術館やパリ市民の台所といわれるマルシェ(朝市)、福祉施設等、日仏比較をしながら見学しました。このよう

うな異文化体験は、私を大きく成長させてくれました。



ローマのサンタンジェロ城をバックに

【貴重な体験となった 誠信女子大学生との交流】

家政科福祉情報専攻二年 稲田 有紀

私たちは、三泊四日で韓国へ研修旅行に行きました。

老人ケアセンター見学やデジタルバビロンでの最先端技術体験、世界遺産である宗廟や、景福宮(朝鮮王朝最初の正宮)、国立民族博物館の見学など、福祉と情報分野の研修、交流を経験しました。

中でも私が一番印象に残ったのは、

【子どもの主体性を 重んじた保育を見学】

幼児教育学科二年 寺木 一湖



宗廟にて

平成二十二年三月二日〜三月十日にドイツ、フランスを訪ねました。幼稚園発祥の地であるドイツの幼稚園を視察し、子どもの主体性をより重んじた保育を見学したことで文化による保育の違いを感じると共に、質疑応答も十分にでき、より深い理解につながりました。

また、ハイデルベルクでは一般家庭に二泊のホームステイをし、現地の生活体験やホストファミリーの方々の交流を通じてよりドイツを堪能しました。フランスにおいてはオルセー美術館やルーブル美術館の素晴らしい芸術作品の数々に感銘を受け、自らの感性を磨くことにつながりました。

このような機会に恵まれたことを学園と両親に感謝し、今後の学びに活かしていきたいと思えます。



シュタイナー幼稚園での質疑応答の様子

【先人の美の足跡を辿って】

生活芸術科一年 坂内 愛海

私たち生活芸術科一年生は歴史的日本文化遺産の宝庫である京都へ三泊四日の研修旅行に行ってきました。四日間十二ヶ所の寺院や神社、京都市美術館などを巡りました。

その中で私が最も印象に残ったところは東寺の五重塔です。私たちが訪れた日は幸運にも五重塔の初層内部が公開されていたのです。内部は立体曼陀羅になっており、密教界の宇宙の真理が表現されているというところで、天井に描かれた花模様や光り輝く星に見え、荘厳で煌びやかな四仏座像は、心柱を囲み、調金が施された装身具は繊細で思わず息を呑むほどの美しさでした。その空間からは目に見えない不思議な力を感じました。

歴史の中で今なお生き続けているたくさんの仏教美術などに触れて先人の遺してくれた思いを受け取り、高度な技術とその美しさに驚愕し、大きな感動を得ることができました。



清水寺にて

【ウィーン、ザルツブルグ 研修旅行の思い出】

音楽科一年 大上 真理

三月二十一日からの一週間、心待ちにしていた研修旅行に行ってきました。

ウィーンでは、歴史ある宮殿や街並み、中央墓地など憧れの作曲家たちの足跡をたどり、また、素敵なオペレッタを鑑賞しました。ハイリゲンシュタットでは、音楽を通して現地の

人とコミュニケーションをとることができ、忘れられない思い出となりました。ザルツブルグでは、モーツァルトの生家や教会を見学し、音楽科の私たちにとても上ない感動でした。一週間という短い期間ではありましたが密度の濃いとても充実した研修となりました。今回の体験を通して音楽の原点に触れたような気がします。



オペレッタを鑑賞したフォルクスオーバーにて

【中国文化を初体験】

文化学科二年 佐藤 絵理香

不安定な空の中、揺れる飛行機に乗り、私たちの七泊八日の海外研修旅行が二月二十五日から始まりました。

世界遺産である万里の長城、故宮がある北京、教科書でも見たことのある兵馬俑のある西安、経済発展が著しく高層ビルが立ち並び、夜景の美しい上海、昔ながらの情景がある蘇州を巡りました。

中国では日本との意識の違い、例えばトイレの違いに大きなカルチャーショックを受けました。また今回は、初めて春節(旧正月)と時期が重なり、特に西安では盛大な花火や爆竹によるお祝いの様子を垣間見るなど、これまでの先輩たちが体験できなかったことを見聞きすることができ、とても有意義なものとなりました。



西安 大雁塔にて

郡山女子大学大学院第十九回
大学第四十五回、短期大学部第六
十一回、短期大学部専攻科第十一
回の入式式が四月十日、建学記念講
堂大ホールで行われた。

郡山開成学園オケストラの奏楽
の後、式典が行われ、大学院修士課
程二名、大学九十六名、短期大学部
三百二十七名、同専攻科十名、編入
学十四名の計四百四十九名に関口
修学長代理・理事長が入学を許可
した。

関口修学長代理・理事長は「皆

さんは今から咲こうとしているサクラのような存在。花を見事に咲かせ二十一世紀の担い手となることを期待します」と告辞を述べた。

来賓の武藤清隆家族会長、名倉美恵子郡山女子大学同窓会長が挨拶し入学を祝った。

続いて附属高校三年の佐藤優さん、附属幼稚園の齋藤太陽ちゃん、福島かなちゃんがお祝いの言葉を述べた。さらに在学生を代表して大学・人間生活学科四年湊谷海海さんが歓迎の言葉を述べた。



これに対して新入生を代表して
大学院の郡司尚子さんと短大・幼児
教育学科の小沢朱郁さんが誓いの言
葉を述べた。

入学

ようこそ開成の杜へ

桜のつぼみが膨らみ始めた四月八日、建学記念講堂において第五十四回入学式が挙行された。式は開成学園オーケストラによる奏楽、ワグナ

「作曲「タンホイザー」大行進曲の演奏に続いて厳かに進められた。

新入生二百四名(普通科百三十九名音楽科十四名美術科十二名食物科三十九名)は緊張と不安に包まれた表情であったが、クラス担任の先生から呼名され、関口校長代理、理事長から「入学を許可します」の許しを受け安堵の表情を浮かべた。関口校長代理、理事長は告辞の中で「附属校生としての自覚を持ち『尊敬』『責任』『自由』の建学の精神のもと勉強に、ポラツに励んでください」と述べた。その後、在校生代表の渡辺萌さんが祝辞を述べ、新入生の代表が「一日でも早く本校の生活に慣れ、勉学にスポラツに励みたいと思います」と誓いの言葉を述べ式が終了した。

四月十三日、桜の訪れがようやく感じられる幼稚園で第五十六回入園式が行われた。四十一名の入園児は緊張した表情。人ひとりの名前が呼ばれると「はい！」と大きな声で元氣いげいの返事をされ、関口修理理事長より入園を許可された。年長児組がお祝いの言葉を伝え、心のもった手づくりのペンダントをプレゼントした。式に付き添ったご家族は晴れ姿をビデオに収めながら感激していた。

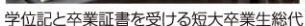
蛍の光に送られて

大学院第十七回、大学第四十一回、短期大学部第五十九回、短期大学部専攻科第九回の修了式・卒業式学位記授与が三月十八日、建学記念講堂で行われた。

大学院修士課程二名、大学百十名、短期大学部三百九十名、同専攻科二名の合計五百四名の各科総代に、関口修学長代理・理事長から卒業証書および学位記が手渡された。関口学長代理・理事長は皆さんが健やかに

さい。本学の教育目標である、尊敬責任・自由を心に留め置き、自分自身の成長を見つめてください」と告辞を述べた。

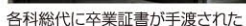
原正夫郡山市長、熊谷和年郡山市議会議長、武藤清隆家族会長、名倉美恵子郡山女子大学同窓会長が祝福の言葉を贈った。また、附属高校二年の佐藤愛美さん、附属幼稚園児代表の石田至宏さんと菅野葉花さんがお別れの言葉を述べた。



三月三日、ひな祭りのよき日、建学記念講堂において第五十一回の卒業式が挙行された。普通科百九十五名、音楽科十名、美術科十六名、食

高連合会長賞、全国調理師養成施設協会長賞、特別教育活動功労賞等、三年間の学校生活で活躍著しい生徒が表彰を受けた。

関口修校長代理、理事長は告辞の中で「これまで育ててくれた両親に



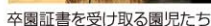
各科総代に卒業証書が手渡された

梅の花がほころび始めた三月十九日、附属幼稚園の第五十五回卒園式が建学記念講堂小ホールで行われた。関口修理理事長がげんきで「あらくてんまでびよ」と書かれた卒園証書を卒園児六十一名に一人ひとり手渡した。



卒園証書を受け取る園児たち

代表して柳田心来ちゃんが受け取った。浅野佳音ちゃんらの贈る言葉を受け、卒園児代表の樽川真奈ちゃんらが幼稚園の思い出などを話した。そして園歌、ふぞくのことばを歌い、思い出を胸に、先生やお友だちとお別れした

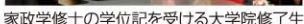


■大学院人間生活学研究科
大学院修士課程の修士論文発表
会が二月九日に開催された。研究課
員は次の通り。

生物の特徴△いか塩辛の嗜好調査と分離した微生物の特徴△台湾産腐乳の微生物と遊離アミノ酸組成について

△生活用品の安全性に関する調査
研究―誤飲等の事故例と対策―△
色彩の意味と役割について―生活を

短大・幼児教育学科



短大・幼児教育学科
△ブルーナ絵本と子どもの成長につ
いての考察△子どものほめ方叱り方

る接し方についての考察△新型インフルエンザ治療への思想的アプローチを中心とした試み

△キムチの官能検査と分離された微

された反ユダヤ主義の伝統

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



イラスト 佐藤 悦美

ようちえんの おじいさんのせい

賀門 康博

もうおじさんの呼び声に抵抗する
気もないくらいに続いていた保育の
中で、数え切れないほどいただいた粘
土や泥のこちそう。子どもと遊びな
がらだと飽きないのは不思議ですね。
「遊び」と言えば、大学時代に体
育会系に(無理矢理)目覚め(させら
れ)てからの趣味がマラソンで、最近
は練習自体が目的になってきていま
す。単調に見えても刻々と変わる景
色や気持ちに身を置き、それを楽し
む……なんだか子どもの「遊び」と
も似ています。だから飽きないのか
もしれません。子どもたちも、日々
異なる(人や物の)環境の中で友達と
真剣に遊び続けていくには、それ相

応の努力や労力が必要です。だから、
ただ遊んでいるように見えても、帰
りのバスの中では疲れ果ててグッスリ
のお子さんたちです。

「『気付いたら出来ていた』という
指導こそが最良」とは私の恩師の言
葉です。子どもたちを自由に心を動
かせる環境に置き、その心もちの変
化を保育者が敏感に感じ取り対処
していけば子どもは自ら伸びていく。
大学ではわかった「つもり」だったこ
の言葉。今、子どもたちへの保育、そ
して自ら走ることを通じてその意味
を毎日かみしめています。

(郡山女子大学附属幼稚園)



「おじさん、これ(粘土のケーキ)食べて〜!」
30秒後…「今度はメロンだよ!」

命の大切さ

穴戸 里依子

先日、郡山市労働福祉会館で
「生命のメッセージ展」のボランティア
に参加してきました。「生命のメッセ
ージ展」とは、ひき逃げなどによる悪
質な交通事故や事件などによる犯
罪など、社会の不条理の元に命を断
つてしまった方々の生きた証であ
る「靴」と、等身大のパネル「に顔
写真やメッセージが添えられたもの
が展示されており、命の重さや尊さ
を考えてもらおうという催しです。
私が高校一年生の時に幼稚園か
ら一緒だった友人が交通事故で帰ら
ぬ人となってしまう。彼とは小
学生のころ、毎日のように遊ぶほど
仲でした。身近な人の死ということ

を私はその当時経験したことがな
く、一緒に学んだ仲間の死をまのあ
たりにし、深い悲しみに包まれまし
た。

彼は先述したメッセージ展の「メッ
センジャー」として参加していました。
それがきっかけとなり、このボランテ
ィアに参加しました。そこには様々
な年齢の方々のパネルがあり、その中
でも、私たちと同じくらいの年代が
特に多く、夢と希望に満ち溢れた者
何の罪もない者がなぜ命を奪われな
くてはならないのか……という想い
で胸が一杯になりました。

私は今回のボランティアで、たくさ
んの尊い命を知りました。そして、命
の重さを学び、どれだけ命が大切な
のかを気づかされました。私は将来
中学校の音楽の先生になりたいと考
えています。もし夢が叶った場合、音
楽だけでなく、今回学んだ命の大切
さも伝えていきたいと思っています。
(短期大学部音楽科)



筆者

ふくしま総文へ向けて

渡辺 萌

平成二十三年八月三日〜七日に、
「第三十五回全国高等学校総合文
化祭(略称「ふくしま総文」)」が開
催されます。全国高等学校総合文
化祭は、文化系部活動のインターハ
イとも呼ばれ、この全国高等学校総
合文化祭が、次年度に福島県では初
めて、しかも郡山地区をメインとし
て県内各地で開催されるのです。
わたしは「ふくしま総文」生徒実

行委員会に所属して、生徒実行委員

第一期生としての活動にも参加し
て参りました。生徒実行委員は、選
出された県内各校の生徒で構成さ
れ、文化部の全国大会へ向けて高校
生らしい感性を反映させながら知
恵を結集させて、準備を進めていま
す。今回、生徒実行委員として活動
させていただきながら、他校の生徒
の皆さんと志を同じくし、ともに労
苦を分かち合うことで貴重な経験
をさせていただいています。こうした
場を与えていただけましたことに、
あらためて感謝申し上げます。

附属高校在校生の皆さん、ぜひ
「ふくしま総文」へ参加できるよう、
これからも精一杯がんばってください
い!
(附属高等学校三年)



筆者

私の本棚

鈴木美代子著

『長岡輝子の 三姉妹』

―美しい年の重ね方―

草思社

郡山女子大学短期大学部

准教授 知野 愛

長命である人の存在そのものが、
人を勇気づけ励ますものだ、近頃
つくづく感じている。特に、大学時代
に母を亡くしている私には、その思い
が一層強い。

整理整頓が苦手で探しものにど
れだけ時間を費やしてきたかわから
ない。整理術の本は随分読んだがほ
とんど役に立たなかった。本のよう
にやつてみたが長続きせず、挫折の連
続であった。How toものは玉石
混交である。巷間、流布されている整
理本の多くは実行に難がある。この
種の本を著すヒト

生活診断室 シリーズ 46

整理整頓

郡山女子大学

教授 藤原 建樹

実行した。前任地では各種団体、研
究会などからもろもろの郵便物が届
いていたが、アンケートやポスターな
ど、多くは不要のものである。まず
中身を捨て(スミマセン)、切手が入っ
ていればいただき、封筒だけを取っ
ておく。少し厚手の趣向をこらしたカ
ラーの大型封筒はとくに重宝する。
とりあえず書類は

この封筒に入れ、棚
の左の端に置く。仕
分けは一切しない。
時系列に並べるだ
けである。文書を読
み返す必要があれ
ば、その封筒は左の
端に位置し、使わな
い封筒は時間とともにどんどん右端
へ移動する。ときどき右端の封筒を
捨て、スペースを作る。この方法で、書
類の整理は随分と楽になった。

目下の悩みは引き出しやラックの
整理である。職場においても自宅
もどうにもうまくいかない。整理整
頓は難しい。

それはともかく、ある本にめぐり
あい、最終的には次のような方策を
試みた。

長岡輝子と言えば、盛岡の言葉で
宮澤賢治の作品を朗読した俳優と
して知られ、東北にも縁がある。本
書を手に取り、まず驚かされるのが
四人姉妹の若々しさである。揃って
生き生きとして気品があり穏やか
な表情をしている。さらに年齢を見
ると長女は百二歳とあるではないか、
目を疑ってしまった。

盛岡で幼少期を過ごした明治生
まれ姉二人(長女、三女)と、盛岡
を知らずに東京で育った大正生まれ
の妹二人(五女、六女)の歩みについて、
何年もかけて聞き書きし纏めたもの
が本書である。

長女妙子は、近代川柳の祖である
井上剣花坊の次男と結婚、ベルリン
やサンフランシスコで海外生活を経
験。三女輝子は、東洋英和女学校卒
業後、文化学院(当時、与謝野鉄
幹品子も教鞭をとっていた)、パリ留
学時には藤田嗣治や吉屋信子、深尾
須磨子とも親交を結ぶ。五女春子は、
商社マンと結婚後、パリ等で暮らす
が、姑との確執や戦時下の子育て後、
料理研究家に。六女陽子は、チェロ奏
者の夫の早世を乗り越え、娘を立派
なチェロ奏者に育てた。

四人の歩んだ道は起伏に富み、
様々な困難に見舞われるが、幼少期
からの父の教えや家族を支えに歩み、
現在に続いている。読む度に勇気づ
けられ励まされる思いがする大切な
一冊である。

祝・学園創立六十四周年 第百六十九回芸術鑑賞講座

ウィーン少年合唱団

「天使の歌声」が心にひびく

ウィーンの特徴、音楽大使として世界中の人々の心を癒す「ウィーン少年合唱団」を迎えての第百六十九回芸術鑑賞講座が学園創立六十四周年記念の第一弾として五月十三日と十四日の二日間、建学記念講堂で開催された。

ウィーン少年合唱団の創立は千四百九十八年。巨匠トスカニーニが彼らのコーラスを評して「天使の歌声」と命名したことも有名で、世界の合唱団の中でも抜群の人気と実力を誇っている。

今回は十歳から十四歳の約百人のメンバーの中からハイドングループの二十五人が来学。セーラーカラーの制服に身を包み、「アベマリア」「世界に



感激を呼んだ「天使の歌声」

一つだけの花」など三十曲を歌い上げた。学生、生徒らは感激しその美しさに酔った。

短大・幼児教育学科

劇とあそびのつどい

短期大学部幼児教育学科の伝統行事、第二十六回「劇とあそびのつどい」が二月六日、建学記念講堂で開かれた。同学科の学生たちが卒業記念の発表などで多くの来場者を楽しませた。二年生の卒業予定者らがリズム劇「ぼくらの声」や人形劇「ともだちほしなオオカミくん」などを次々と披露した。子どもたちがステージで学生と一緒に踊る場面もあり、学習の成果を十分に発揮した。ギャラリーには「おあそびコーナー」も設置され、学生手作りの的当やボウリングなどは来場した子どもたちに喜ばれた。



オペレッタ「サクリとボック」

式典に花を添える
マーチングバンド部

大規模改修を完了した郡山開成山野球場。四月十八日にオープニングセレモニーが行われた。ウェルカムアトラクションとして附属高校マーチングバンド部が出演。部員が「郡山市民の歌」「栄冠は君に輝く」などを演奏し、式典に花を添えた。



リニューアルされた開成山野球場にて(写真提供:福島民報社)

新入寮生歓迎会

新入寮生五十八名(大学二十六名、短大二十六名、高校生六名)を迎え、四月二十一日、芸術館大教室において新入寮生歓迎会が盛大に開催された。「ようこそ家庭寮へ」。心のこもった在寮生のメッセージや趣向をこらした余興に笑顔がこぼれ、故郷を離れた寂しさを忘れ、新しい友と楽しいひと時を過ごした。



趣向をこらした在寮生の余興

庄司一郎教授のグループが協力
米粉一〇〇%のパン販売

本大学家政学部部の庄司一郎教授グループと玉川村生産加工組合(小林功組合長)が米粉一〇〇%で作ったパン「純こめぱん」を商品化し、四月二十二日から「道の駅たまかわ」で販売されている。

庄司教授と同組合が十年がかりで開発したもの。小麦、牛乳などのアレルギーが出ないのが特徴で今後は村産米の活用を目指す。協力した庄司教授は「アレルギーの人も安心、安全の米粉パンをおなかいっぱい食べてほしい」と話している。



大好評の米粉パン

声楽アンサンブルコンテスト
第三回全国大会で
銀賞・優良賞を獲得

本県主催「声楽アンサンブルコンテスト第三回全国大会」に附属高校音楽部のA、Bの二チームが一般公募で参加、三月二十日の全国大会(福島市)に進んだ。三年連続の出場。Aが銀賞、Bが優良賞を獲得した。定年退職した顧問で指揮者の松崎洋子先生の最後の大会でアンドリーセン作曲「ミサ シンプレックス」よりAチームがキリエ、サンクトウス、ベネディクトウス、Bチームがグローリア・ア・ニクス、デイ(宗教曲)を見事に歌い上げた。

本学所蔵 紙上美術展 61

竹久夢二の木版画

竹久夢二は明治十七年岡山県に生まれ、明治末から昭和初期にかけて活躍、一世を風靡した詩人である。大正の歌麿とも言われているように、その作品には庶民の暮らしに根付いた喜びや悲しみが表わされており、一世に近い時を経た今日でも人々の心を魅了している。また、美人画はもちろん、子供画や晩年は日本の山河を多く主題としている。

また、木版画の制作、楽譜や表紙装丁にも携わり、浴衣、手拭いなど日々の生活に用いるもののデザインにも情熱を注いだ。日本のグラフィックデザイナーの先駆者としても有名である。



「化粧」



「小春」

木もれ陽

日本の学校の入学は4月で、入学式と満開の桜の花との取り合わせは、私たちの胸深いところでは定番となっていて、更に春風に舞う花弁が新入生たちの肩にかかるうものなら、もうほほ永遠なる風景である。今年、雪降る中での入学式であったが、冷たい雪で覆われ震える花弁の色は雪の白さとの対照によって何時もより濃い紅色に可愛く映えて、丁度入学の式典で紅潮した新入生たちの頬の色と重複していた。

ところで、その日本の4月の「入学式と桜」が、欧米の学校となると9月の「入学式と憂鬱」となる。それに対して彼らは彼らの豊かな感性を持つ。人間や自然に対する情愛の深さにおいて彼らと私たちの間で上下優劣があるはずがない。私たちが「入学式と桜」を想えば想うほど日本人の心が

愛おしくなるのと同様に、彼らは彼らで自由な夏季休暇後の静かな秋の「入学式」を落着いた勉学の開始として感慨深く想っているに相違ない。「卒業式」で歌えば必ず涙する日本人の心そのものと私たちが信じて疑わない「蛍の光」は、実は英国スコットランド地方の民謡であるし、更に「仰げば尊し」もそちらの出し。こうなるともう日本と他国の間に、人間の心における本質的相違はないと考えたい。

自分の心を深く追っていく性質を「専門」と言い、他の人の心の有り様を思い量る性質を「教養」と言っても宜しいと思う。「専門」はもとより大切であるが、同時に「教養」を忘れてはならない。「大学の反省」「憧れ」と「希望」を取り戻すために「」の中で著者である猪木武徳氏は「教養」を「世界と人類に関する諸理念の体系」とし、その「教養」の教育の復活がいかに現代において重要であるかを力説して止まない。

(均)